

令和4年度地域と市長のまちづくり懇談会 谷川校区

開催年度回次	令和4年度第22回	開催月日	12月11日	開催校区	谷川校区	開催場所	谷川校区市民館
議 題				市の回答			
<p>1. 二川中学校への自転車通学における通学路の安全整備について</p> <p>原町から二川中学校へ通う子どもたちは、毎朝、通勤車両とちょうど同時刻に対面で自転車通学をしております。国道1号線の豊清町籠田交差点からその東側の次の信号交差点までは歩道が設置されておりますが、そこから東側、原町信号交差点までの間は、子どもたちは、電柱があれば狭い路側帯をはみ出し、すぐ横を通る車にも気をつけながらの通学を余儀なくされております。</p> <p>子どもたちは、通行車両に対ししっかり注意をしながら通学をしておりますが、いつ接触事故が起きるか心配です。事故が起きてからの対処にならないよう、子どもたちの安全な通学への対応策を検討していただきたいです。</p>				<p><b>道路建設課</b></p> <p>本件につきましては、現場を確認しましたが、通勤車両や業務用車両の通行が多い道路であること、道路幅員が限られていることから、自動車と自転車双方が安全に走行できる対策を現道で行うことが難しい状況です。そうした中では、地元の方々や学校関係者と新たな対策を検討していくことも必要であると考えています。</p> <p>具体的な案としましては、現在の通学路よりも交通量が少ない道路に通学路を変更することが考えられます。候補としては、原町交差点の南にある原町公民館から国道1号の区間が挙げられます。車両の通行量は現在の通学路よりも少なくなりますが、課題としまして、現在の通学路よりも遠回り(約500m増)になること等があります。</p>			

開催年度回次	令和4年度第22回	開催月日	12月11日	開催校区	谷川校区	開催場所	谷川校区市民館
議 題				市の回答			
<p>2. 谷川小学校について</p> <p>(1) 学校設備の充実(校舎増改築)  谷川小学校において、①工作室がない ②特別支援学級の教室を1つ増やしたい ③適応指導教室がない ④事務室、放送室、印刷室が同じ部屋となっている ⑤職員室が狭い といった課題がありますので、南校舎2階の増築及び大型改修をしていただきたいです。</p> <p>(2) 現在、小学校の東側から学校に入れる箇所がなく、西側の道路も狭いため、子どもたちの通学やバスを利用した課外活動の際などに不便な状況です。東側の道路と小学校の敷地は接していないため土地の買収の課題もありますが、子どもたちの安全のためにも東門を設置していただきたいです。</p> <p>(3) プール跡地を駐車場化していただきたいです。また、敷地内のアスファルトが全体的に痛んでいたりと、未舗装の箇所がありますので、アスファルトの整備をしていただきたいです。</p>				<p><b>教育政策課</b></p> <p>(1) 谷川小学校における教室の充実は、今後の児童数の推移を見ながら必要な対応を検討していきます。</p> <p>(2) ご不便はおかけしますが、学校運営上、必要な敷地面積は確保されていることから、学校用地を拡張し、東門を設置することは、現時点では考えておりません。</p> <p>(3) プールの跡地利用を検討する際には、学校はもとより、地域の実情等を踏まえて、しっかり検討していきたいと考えております。  また、敷地内のアスファルト整備は、全市的に校舎、体育館の全面改修に必要な予算配分に重点を置いているため、今後の課題であると認識しています。</p>			

開催年度回次	令和4年度第22回	開催月日	12月11日	開催校区	谷川校区	開催場所	谷川校区市民館
議 題				市の回答			
<p>3. 谷川校区の用途区分について</p> <p>谷川校区が市街化調整区域になっていることもあり、年々、子どもの人数が減少しています。保育園についても入園人数が減少していることが、気になるところです。今後、見直しを行い、谷川校区が市街化区域となる予定はないでしょうか。</p>				<p><b>都市計画課</b></p> <p>本市の市街化区域は、これまで土地区画整理事業等による基盤整備により、住宅用地を拡大してきました。</p> <p>今後、少子高齢化が見込まれる中、市街化区域が拡大し続けると、将来、居住や人口が低密度化し、一定の人口密度に支えられてきた公共交通をはじめ医療、福祉、子育て支援、商業等の生活サービスの提供が困難な状況になると想定されます。</p> <p>こうしたことから、現在、都市計画では、市街化区域内の鉄道、路面電車、幹線バス路線沿線の利便性が高い地区に居住を誘導し、まとまりのあるまちづくりを進めています。</p> <p>谷川校区における市境周辺の地域は、新所原駅に近く、利便性の高い地域であります。しかし、市街化区域へ編入するためには、基盤施設整備における事業主体や事業実施の時期など整備の確実性に加え、位置や規模の妥当性のほか、幾つかの課題を整理しなければ、市街化区域への編入は難しいものと考えております。</p>			

開催年度回次	令和4年度第22回	開催月日	12月11日	開催校区	谷川校区	開催場所	谷川校区市民館
議 題				市の回答			
<p>4. 同報系防災行政無線整備について</p> <p>原町では、防災危機管理課の支援により令和元年11月に防災倉庫の設置および防災器具や備蓄品の配備を行っていただきました。災害発生時に、行政からの支援をすぐには頂けないことを十分に承知しておりますので、自助・共助を進めていく上で非常に有り難いかぎりです。</p> <p>有事の際には、市民への大切な情報が同報系防災行政無線で流されることがあると承知しております。わが校区にも、谷川小学校の敷地内にスピーカーが設置されておりますが、原町は非常に距離が離れており、風向きが良いときでも全く聞こえません。防災ラジオの利用斡旋も進められておりますが、この地域は FM電波の状態も思わしくないのが現状です。</p> <p>大雨・浸水等の災害は毎年発生している状況ですので、災害時の情報共有に向けた支援を是非ともお願いしたいです。</p>				<p><b>防災危機管理課</b></p> <p>市からの緊急情報の伝達は、一つの手段では難しいことから、情報伝達手段の複線化により、多くの市民に伝達することとしています。具体的には、豊橋ほっとメールやヤフー防災、防災アプリ「ハザードン」などによる通知、豊橋防災ラジオの割り込み放送を活用するほか、消防署や消防団、広報車の巡回による広報などにより情報の伝達に努めます。</p> <p>災害時には、市民の皆様が入手しやすい方法で緊急情報を共有していただきますようお願いいたします。</p> <p>情報発信ツールのチラシもございますので是非ご活用ください。</p>			